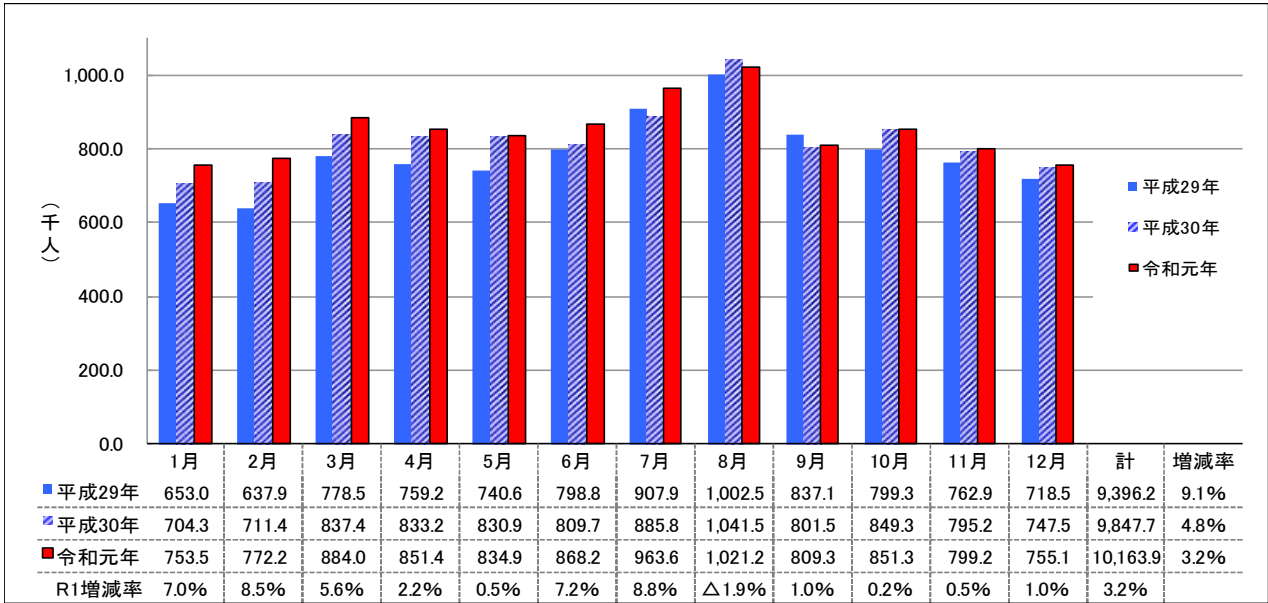


令和元年（暦年）沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和2年1月発表

令和元年（暦年）の観光客数は、1,016万3,900人で過去最高
対前年（H30）比 +31万6,200人、+3.2%

■月別入域観光客数の推移（平成29年～令和元年）



■令和元年（暦年）の概況（総括）

令和元年（暦年）の入域観光客数は1,016万3,900人で、前年比で31万6,200人、率にして3.2%の増加となった。韓国市場の減速による影響が大きかったものの、初の1,000万人台を記録し、7年連続で過去最高を更新した。

前年と比べて増加した要因は次の通りと考えられる。

- 行政や民間が一体となったプロモーション活動により、沖縄の認知度向上や旅行意欲の喚起を図ったこと
- 下地島（宮古）路線の新規就航などの国内航空路線の拡充による国内客の増加
- 海外航空路線の拡充・クルーズ船寄港回数の増による外国客の増加
- 前年は麻しん発生や自然災害の影響が大きかったことによる反動

■令和2年の見通し

令和2年は、那覇空港第2滑走路の供用開始により観光インフラが拡充されることや、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催による訪日旅行需要の高まりが期待されるほか、ツーリズムEXPO ジャパン2020沖縄開催が予定されている。

国内客については、各航空会社による航空路線が拡充されていることから、国内観光地との競合が想定されるものの、国内旅行市場は堅調に推移するとみられる。

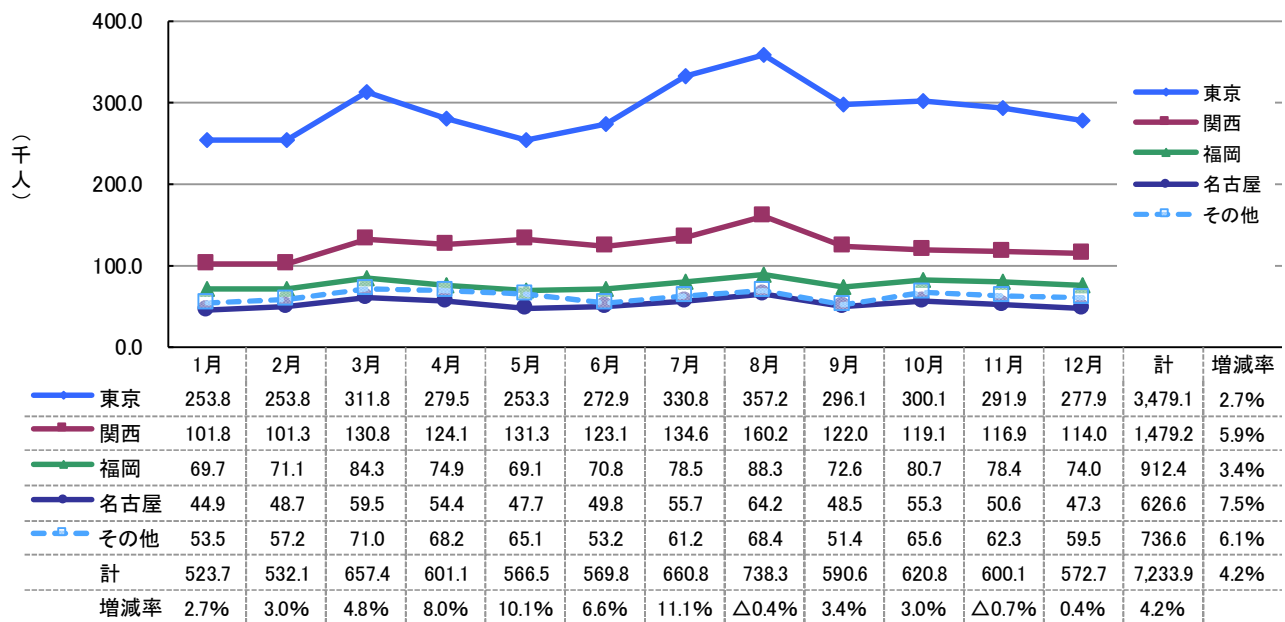
外国客については、韓国市場の動向を留意する必要があるものの、中国・東南アジア市場において航空路線の拡充が予定されていることや、経路便による空路客の入込増加が期待される。また、クルーズ船の寄港についても増加する予定となっていること等から、堅調に推移するものと見込まれる。

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

令和元年（暦年）の国内客は、過去最高の723万3,900人で、対前年比で29万人、率にして4.2%の増加となった。これまでの暦年における国内客の過去最高の入込は、平成30年の694万3,900人。

■令和元年（暦年）国内観光客の状況（方面別の月別推移）



■国内観光客の概況

令和元年（暦年）は台風の影響があったものの、景気回復基調が継続したことで全体として国内旅行需要は好調に推移した。ゴールデンウィークが10連休となり4月では初めて60万人を超えたことや、成田ー下地島（宮古）路線の新規就航等の航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

【方面別の動向】

東京方面 成田ー下地島（宮古）路線の新規就航に加えて、既存路線の提供座席数の増加などの航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

関西方面 関西ー下地島（宮古）路線の新規就航に加えて、既存路線の提供座席数の増加などの航空路線の拡充があったことや、前年は関西国際空港の一時閉鎖や台風の影響が大きかったことによる反動等から、前年を上回った。

福岡方面 福岡から宮古・石垣への直行便及び北九州ー那覇路線の提供座席数の増加などの航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

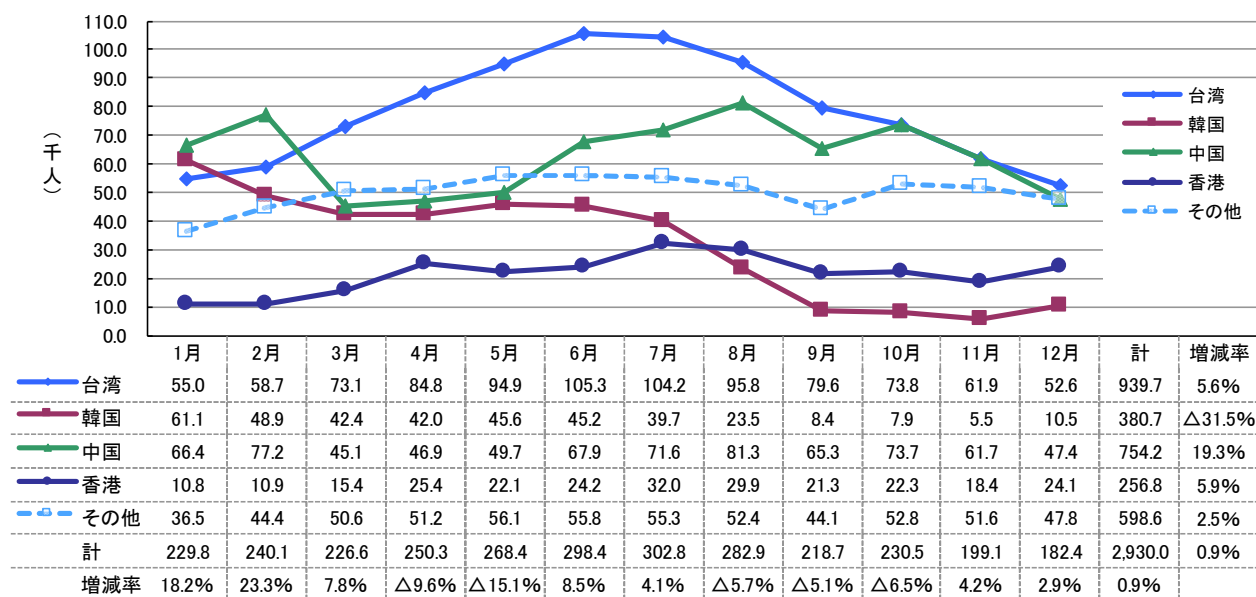
名古屋方面 名古屋から宮古への直行便及び名古屋ー那覇路線の増便等の航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

令和元年（暦年）の外国客は、過去最高の 293 万人で、対前年比で 2 万 6, 200 人、率にして 0. 9% の増となった。これまでの暦年における外国客の過去最高の入込は、平成 30 年の 290 万 3, 800 人。

■令和元年（暦年）外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



■外国人観光客の概況

令和元年（暦年）は、全体としては前年並みに推移した。空路客については香港市場の航空路線の拡充等があったものの、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便等の影響により、前年を下回り、海路客についてはクルーズ船の寄港回数が増加したことにより、前年を上回った。

【市場別の動向】

台湾 航空路線の拡充に加え、クルーズ船の寄港回数も前年並みを推移したこと等により、空路・海路客ともに増加し、過去最高であった前年を上回り、初の 90 万人台となった。

韓国 韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便等の影響により、空路客を中心に減少し、過去最高であった前年を下回り、30 万人台となった。

中国本土 航空路線は前年並みを推移したものの、中国発クルーズ船の寄港回数増により、海路客が増加し、初の 70 万人台となった。

香港 航空路線の拡充に加え、香港発クルーズ船の寄港回数増により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回り、過去 2 番目の観光客数となった。
※過去最高は、平成 29 年の 25 万 6, 900 人

その他 シンガポールー那覇路線など東南アジア方面での提供座席数の増加があった。